

**トピックス** ちがさき丸ごと博物館講座(基礎編)卒業式&ガイド部会修了式開催!

住まうまち・茅ヶ崎を一から知ることができる講座「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館講座(基礎編)」は、これまでに200名を超える方が受講されました。以前から多くの方に熱望されていた卒業式イベントを平成30年3月28日に開催。第1期から第8期までの方が一堂に会し、ちがさき丸ごと博物館館長(社会教育課長)から卒業証を授与しました。

また、同日にガイド部会の研修の修了式も行い、全課程を修了した2名の方に修了証を授与しました。研修課程は全16回にわたり、実際にまち歩きガイドとして市民の方へ茅ヶ崎の都市資源をご案内しました。

その後、横浜国立大学大学院の大原一興先生に、記念講演をしていただきました。3年に一度開催される国際博物館会議(ICOM)が2016年にミラノで開かれたときのお話を中心に、ランドスケープとエコミュージアムについてお話ししていただきました。2019年、ICOMが京都で開催されます。京都大会後に、実際にエコミュージアムの活動を見に、神奈川へ各国のエコミュージアムに携わる方々をお連れしたいとお話もありました。茅ヶ崎の活動が各国の方々に見ていただける機会となるかもしれません。



**コラム**

**春爛漫の季節になりました！  
コミュニティバスに乗って、散策に出かけませんか？**

コミュニティバス(コミバス)で巡れる観光マップができたということで市都市政策課の山形さんと山崎さんにお話を伺いました。「コミバスで巡る観光マップ『茅ヶ崎北』と『茅ヶ崎南』が発行されています。マップには、観光スポットやレストラン、ショップなどが載っていて、途中下車したり乗り継いだりして路線バスでは巡れないスポットにも足を運べます。一日自由乗車券(500円)も用意されていて、お得感も満載です。このマップは観光案内所で入手できます(数に限りがあります)」とのことでした。



過ごしやすい陽気となりました。この機会にマップを持って出かけてみてはいかがでしょうか！(板倉)

**トピックス**

エコミュージアム調査研究のために、ちがさき丸ごと博物館に訪れていた学生たちが、市主催の「未来茅ヶ崎市2017政策コンテスト」に出場し、丸博の活動と連携した政策を打ち立て、見事第3位に！

政策コンテストを主催している市の企画経営課の大澤さんにお話を伺うと、このコンテストは、18~24歳の若者が、市長になりきって茅ヶ崎市の未来を輝かす政策を立案・発表し、観覧者の投票で優勝を決めていくそうです。

この政策コンテストでは、コンテスト本番に向けて、参加者はマイクロバスで市内を巡ります。ちがさき丸ごと博物館の会では、バスに同乗して、茅ヶ崎の都市資源をご案内して協力しています。

平成30年度も政策コンテストを開催するとのことです。どのような政策が提案されるのか、楽しみです。(源)



**ちがさき丸ごとふるさと発見博物館って何？**

茅ヶ崎市の全域を屋根も壁もない博物館と見立てて、文化、歴史、自然、産業、商業、公共施設、人材など、「このまち」らしさをもついろいろな事柄を幅広く選び出し、これらを都市資源と呼ぶことにしました。これらの都市資源を調査・研究し、それぞれがもっている意味や魅力を広く市民に周知する一方、それぞれを関連付けて散策や各種イベントなどで活用を図ることにより、茅ヶ崎を改めて知り、茅ヶ崎を愛する心を育み、ひいてはまち全体の活性化を図ろうとするものです。そして、都市資源は地域のかげがえのない宝ものとして、地域により保護され育てられていくことになります。住民が、自分たちの地域の未来のために、自分たちの考えと力で運営していく姿勢を特に重要視しています。

**編集後記**

今回の企画展は「ある地域」に焦点をあてるというアプローチに初挑戦、新たな展望がみえました。丸博の活動が世界につながる可能性に胸が高鳴る——そんな春がやってきました。広報部会(坂井、源、板倉)

発行・編集 ちがさき丸ごとふるさと発見博物館アクションプロジェクト 広報部会 (印刷協力 湘南ちがさき屋)  
〒253-8686 茅ヶ崎市茅ヶ崎1-1-1 茅ヶ崎市教育委員会教育推進部 社会教育課文化財保護担当・社会教育担当  
Tel 0467-82-1111 E-mail: shakaikyoku@city.chigasaki.kanagawa.jp

バックナンバーは

屋根も壁もない・・・市内が全部博物館・・・



(愛称は「ちがさき丸ごと博物館」)

第35号

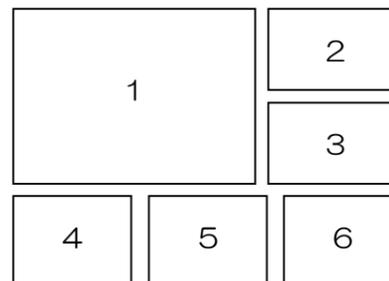
2018. 4. 1



**企画展「お届けエコミュージアム！  
松林丸ごとふるさと発見博物館」開催報告号！**



【表紙写真】



- 1 今回の企画展の中心拠点となった松林公民館
- 2 ボランティアスタッフによる企画展準備の様子
- 3 「自然観察会」：赤羽根で古相模川流れの跡を見ることができました
- 4 企画展準備中に、京都府城陽市教育委員会のみなさまが視察にいらっしゃいました
- 5 「オープニング講演会」：初日から大盛り上がりでした
- 6 企画展期間中、松林公民館に訪れた方にまちの宝ものを書き込んでもらったガリバーマップを整理中

# 平成 29 年度企画展「お届けエコミュージアム！ 松林丸ごとふるさと発見博物館」 開催報告

平成30年2月17日（土）から23日（金）まで、松林公民館とその周辺地域を舞台に、企画展「お届けエコミュージアム！松林丸ごとふるさと発見博物館」を開催しました。

今回の企画展では、市内の「ある地域」に焦点を当てるアプローチに挑戦！松林地域に点在する、市民一人一人にとっての「まちの宝もの」を書き込んでいくガリバーマップづくりをはじめ、多彩な企画で、地域についてみんなで学び合いました。「来年もやってほしい」「次はうちの地域でやってほしい」など、多くの方からうれしいご感想をいただきました！これからも、丸博の新しい挑戦は続いています。



▲企画展オープニング。服部名誉館長によるあいさつ

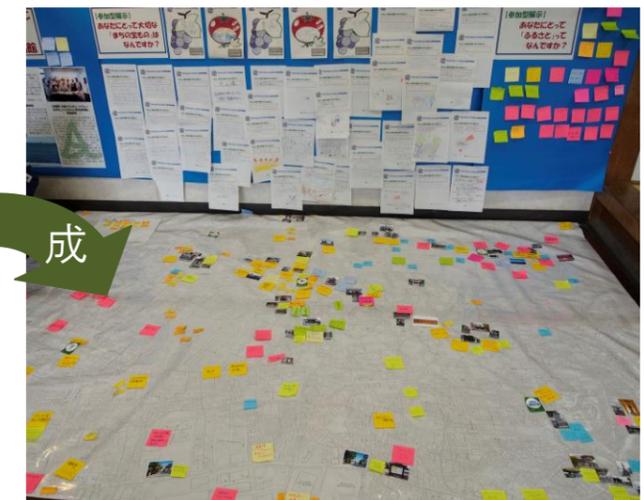
◀松林地域5か所を巡るスタンプラリーの台紙にもなっている企画展プログラム。166名の方が達成し、ゴールとなる松林公民館に記念品を受け取りにいられました！▼



「まち歩き」「講座」「芋団子づくり」「学生によるエコミュージアム調査研究発表会」「自然観察会」など、地域を学びあう企画がいっぱいの1週間となりました！



▲1枚の大きな白地図から、みんなで作くりあげた、まちの宝ものであふれたガリバーマップ



完 成



▲「松林」という名前イメージを出発点に、針葉樹林の地図記号をモチーフにした企画展ロゴマーク。人と人、人とまちなど、さまざまなつながりを一筆書きで表現。姥島（通称：えぼし岩）も連想させるシルエットに。ロビーでは、高さ約3.5mのロゴマークオブジェを展示しました。



会期中はもちろん、その前の準備段階から、会場となる松林公民館をはじめ、多くの地域の方々にご協力をいただき、無事に企画展を終えることができました。文字通り、子どもからお年寄りまで、多くの皆さんに地域の歴史や魅力などについて、たくさんのお話をいただき、素晴らしい交流の場となりました。市民ボランティア一同、心から感謝申し上げます。これからもどうぞよろしくお願いいたします！

